

学校教育の支援と学校・家庭・地域連携協力推進事業

アナ： 「市長が語る 2016 三島」第 21 回の今日は、「学校教育の支援」と「学校・家庭・地域連携協力推進事業」について伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： まず「学校教育の支援」ということで、現在、三島市内の小学校に配置している学校支援員について教えてください。

市長： 学校支援員は小学 1 年生の通常学級の全クラスに配置しています。また、1 年生以外にも支援が必要な児童がたくさんいますから、ニーズを考慮して各学校に配置しています。通常の学級への支援を始めた平成 16 年は 10 名からのスタートでしたが、学校や保護者から増員を望む声が多く、平成 28 年度は 53 名の学校支援員を配置しており、近隣の市町と比較しても手厚い配置をしております。

アナ： どうして小学 1 年生の全学級に配置しているのですか。

市長： 「小 1 プロブレム」という言葉をご存知でしょうか。小学校に入学したばかりの 1 年生が学校生活になかなか馴染めない状態が続くことを指します。大きな期待を胸に入学をした 1 年生の子どもたちや保護者にとっては、同時に大きな不安も抱えていることが多く、そうした子どもたちが一日も早く学校生活に慣れるため支援を手厚くしています。

アナ： 支援員は子どもたちにとって心強い存在なのですね。1 年生以外ではどのような支援をしていますか。

市長： 小学 1 年生が学校生活に慣れ始めたら学校の実情に合わせ、1 年生の支援員を柔軟に他学年に配置しています。さらに通級指導教室には 3 名、特別支援学級には 13 名の支援員を配置しており、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導に努めています。子育てしやすい三島市となるよう、教育環境のさらなる充実に今後とも取り組んでいきたいと考えています。

アナ： 学校教育の支援の充実、期待しています。

では、続いて、「学校・家庭・地域連携協力推進事業」について伺いますが、これはどのような取組なのでしょうか。

市長： 社会環境が変化する中で、家庭や地域の教育力の低下が問題になっていますが、子どもたちの健やかな成長のためには、学校と家庭と地域の 3 者が連携を強化し、社会全体で教育力の向上に取り組むことが必要不可欠です。

将来の三島を担う子どもたちを、より良い教育のもと、地域全体で育てていくため、学校支援地域本部事業と家庭教育支援事業という 2 つの支援事業を実施しています。

アナ： 学校と家庭教育、それぞれに対する支援なのですね。

まず、学校支援地域本部事業についてその内容を教えてください。

市長： 現在の学校において、先生は非常に多忙です。本来の『子どもに教える』という根幹の部分に十分な力を注いでもらうために、「地域全体で学校教育を支援する」「地域で担える部分を応援する」という体制づくりが、学校支援地域本部事業です。

アナ： つまり地域ごとに各学校を支援する組織・取組、ということでしょうか。

市長： そのとおりです。言ってみれば、各学校の「応援団」ですね。

三島市では、平成 28 年度から、市内の公立小中学校 21 校のすべてに学校支援地域本部を設置しています。そして、各学区では、学校の依頼に応じ、学習作業の支援、放課後の学習支援、職場体験などに地域の方々が取り組まれています。

地域やボランティアの皆様の日頃からのご協力に感謝申し上げますとともに、今後のご活躍に大きく期待しているところです。

アナ： 地域の皆さんの力こそが、学校教育の大きな支えになっているのですね。

では、もう一方の家庭教育支援事業について教えてください。

市長： 家庭教育についても、社会環境の変化や家庭の問題が複雑化する中で、社会全体で支援する必要性が高まっております。全ての保護者が安心して家庭教育を行えるように、家庭教育支援活動を実施しています。

アナ： 具体的には、どのような支援の活動なのでしょう。

市長： 保護者の方を対象に、元教員などの経験豊かな家庭教育アドバイザーが、教育相談や家庭教育支援講座を行うもので、市内の全公立小中学校で実施しています。

教育相談では、家庭教育アドバイザーが個別に相談に応じています。家庭教育支援講座は、参加者の皆さんが小グループになって、日頃から気になるテーマについて、一人ひとり話したり、聞いたりする、グループトークの形式で実施しています。

アナ： 講座とは言っても、講師が一方的に話す形ではない、和やかな「語り合い」の場なのですね。

市長： そのとおりです。その語り合いの中で、自分の子育てや教育の悩み・不安について、解決のヒントや安心感を得て、前向きな気持ちになっていただこうとするものです。これまでの参加者の 95%以上の方が「家庭教育の参考になった」との感想を寄せてくださっています。子どもが将来社会に出るための一番の基礎は家庭教育ですから、この家庭教育をこれからも支援していきたいと考えています。

アナ： 今後の三島市の教育環境の充実への取組、そして子どもの教育への地域の皆さんの応援に、大いに期待しています。

豊岡市長、本日はどうもありがとうございました。

市長： ありがとうございました。